

建築術語事典

建築術語事典

工学博士 平 山 嵩 監修
久保田時人
沢田 直 躬 共編

江苏工业学院图书馆
藏书章

才 一 ム 社

著者略歴

平山 嵩

大正 15 年 東京帝国大学建築学
科卒

現 在 工学博士・東京大学
教授

久保田時人

昭和 20 年 神戸工業専門学校建
築科卒

現 在 建設省関東地方建設
局勤務

沢田直躬

昭和 19 年 横浜工業専門学校卒

現 在 人事院任用局勤務

建築術語事典

昭和 31 年 12 月 15 日 印 刷 定 価 400 円

昭和 31 年 12 月 20 日 発 行 地 方 価 410 円

監 修 平 山 嵩

編 者 久 保 田 時 人

沢 田 直 躬

発 行 株式会社 オーム社

東京都千代田区神田錦町3ノ1

代 表 者 田 中 剛三郎

発 売 所

株式会社 オーム社書店

東京都千代田区神田錦町 3 ノ 1 (振替東京 20018)

京都市河原町通り四條上ル (振替大阪 69205)

大阪市淀区長柄中通り 2 ノ 10 (振替大阪 10884)

印刷 中央印刷 製本 三水舎

ア	1	タ	213	マ	330
イ	21	チ	225	ミ	336
ウ	31	ツ	233	ム	340
エ	36	テ	236	メ	341
オ	45	ト	245	モ	343
カ	57	ナ	260	ヤ	348
キ	86	ニ	266	ユ	351
ク	102	ヌ	271	ヨ	354
ケ	109	ネ	271	ラ	358
コ	116	ノ	276	リ	361
サ	141	ハ	279	ル	366
シ	150	ヒ	291	レ	368
ス	186	フ	300	ロ	372
セ	195	ヘ	314	ワ	376
ソ	207	ホ	319	付 録	379

序 文

建築を勉強する人にとって建築術語ほど解りにくいものはない。殊に諸外国から輸入された言葉や、日本古来の術語は普通の字引にもものついていないためわからず仕舞で過すことが多いようである。

このたび久保田時人、沢田直躬の両氏によつて建築術語の解説書が発刊されることになったのは、建築専門家のみならず建築愛好家にとって早天に慈雨を得た感が深い。

両氏は建築界における少壮篤学の士で、5年有余の歳月熱心に術語と取組まれた成果が本書なのである。広範な術語の中から要領よく適宜の選択をし、簡明な説明を加えてあるので各階層の読者がどんなに便益を得られるか測り知れないものがある。

事典という難事中の難事を完成された両氏に敬意を表すると共に、時世の変移に応じて改訂増補の労を取られ、いかなる時代にも完璧の事典であることを希望する次第である。

1956年12月12日

平 山 嵩

は し が き

電気、機械、化学、土木、通信など工学にはいろいろの分野があるが、その歴史をみると長いもので2,300年、大体は100年前後の歴史しかもつていない。これにくらべ建築は人類5000年の文明と共に歩み、共に発展してきた唯一の工学といえよう。それだけに建築学には各民族の各世代の文化がしみこみ、これがためかその専門語すなわち術語の豊富にして洗練されていることもまた他の工学に類をみない。

恐らく各国の建築術語の完全なる事典を作るとすれば世界最大の辞典エンサイクロペジアに匹敵するものを作らねばならぬだろう。

このようなわけか建築を学ぶものにとつてその術語を憶えることは勉強をする上の一つの難点にすらなつている。

私達が建築を学びはじめたときも黒板に書かれた難読な術語を理解するために何冊かの参考書をめくり、講義をノートするのにあてる字が判らぬためカナ書きにしておいて後で手頃の辞典がないために苦労しながら調べた記憶は今でも忘れられない。

この苦労をしたため後学の人々に何か役にたてばといろいろの本をみるごとに術語を引き出して書きためておいたが、それをオーム社の三井専務の知るところとなり、学生諸君や建築士受験の方々の参考になるようにまとめてみて呉れとの御話があつたので、勉学上必要な概数や数値をつけ加えて約5000語を精選して整理したが、途中文部省の学術用語の発表があり、それにあわせるためにまた整理のし直しを行つて、約2年かかつてまとめてみたが、いざ見直してみると浅学のためあちこちに不十分な点が多く、思うにまかせぬものとなつてしまつたが、周囲の方々のおすすめもあつて一応ここで1冊の本にまとめてみることにした。この小冊子が後学の方々の術語の理解を早めることにより学問の進歩に少しでも役立てば幸甚の限りである。

また不備の点も多々あるがこれは今後識者諸兄の御指導を願い、完全なものとしていきたいと思うゆえ御気づきの点は御教え願いたい。

なお本書の編纂にあたり終始変らず御指導をたまわつた平

山教授をはじめ、建設省の上司、恩師、先輩各位並びに各種の便宜をはかつて下さった**オーム**社の古賀会長、三井専務をはじめ出版部の各位に厚く御礼申し上げます。

昭和 31 年 11 月

編者しるす

建築術語事典

ア

アーキトリーブ architrave ギリシャ建築における柱の上部の図のような部分をいう。

アーク溶接 arc welding 電弧溶接のこと。溶接の項参照。

アーケード arcade 古くは凱旋門などのアーチ形の門をいつたが、現在ではこれらの門はもちろんのこと商店街および有がい街路もアーケードと呼ばれている。

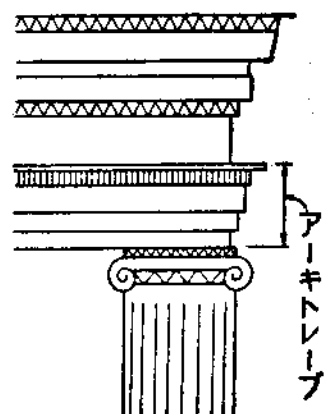
アーチ arch (1) せり持に同じ。せり持の項参照。

(2) 鉄骨構造において弧形をした架構をいう。 (3) 祝賀式場などの正面およびその入口に造られた弧形または□形をした門をいう。

アーヘンの宮廷礼拝堂 796～804年にドイツに建造された初期キリスト教建築で、中央は正八角形の部屋でその周囲の廊下は2階建てで16角形となっており、中央のドームは高さ25mで、ビザンチン式ドームではなくローマ式の角形ドームであり、方形の後陣は14世紀の増築で玄関ホール両側に塔がある。外観は無装飾であるが施工が優秀でローマの技術が自由に使われている。基本設計はアインハルトが行いメッツのオットー (Otto) が建築の指揮をとった。

アール・ヌーボー Art Nouveau 19世紀末ドイツにおいてセセッションが起るとフランスにおいてもこの影響を受けて新しい工芸運動が起った。この新建築様式のことをいいその特徴は複雑な曲線を数多く装飾的に用いている。ヘンリ・バンデ・ベルデがブラッセルの工芸博覧会に出品した新様式の家具からこの名が生れ、その後ヘクター・グイマードもこの運動を指導したが1900年以後消滅した。

アイオニック・オーダー Ionic order (1) 古代ギリシャの建築様式の1種で、ドリックよりも一般にきゃしゃにできて



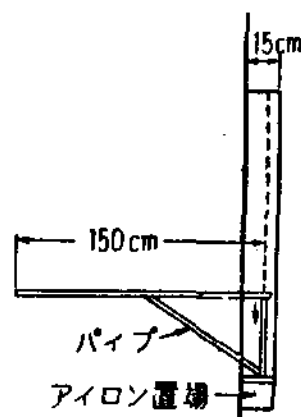
いる。各部の線形が多く、エンタブレチユアはメトープ・トリグリポスの区別がなく、またドリックのメトープを飾った彫刻もないことが多い。柱も比例が細く柱間も遙かに広い。最盛期の例を見ると、柱の長さは18モデュラス（モデュラスは柱最下部の半径）、柱間は5モデュラス以上である。またその柱の溝はドリックのものに比べると遙かに深く溝と溝の間には面がある。その面の数は24本が普通である。エンタシスはドリックが最下部において最大であるのに比べてアイオニックは下から1/3上つたところが最大である。キャピタルは大きな渦巻からできているがこれはその起源が東にあることを示している。アイオニックの細い柱は形の上から下部に何等かの版が必要であつて、そのためベースがつけられ、このベースに時にはにぎやかな線形と沢山の彫刻がつけられていることがある。（2）古代ローマの建築様式の1種で、形式は全体としてギリシャのものに似ているが、各部の洗練さは比較にならないほど劣っている。またキャピタルの渦巻が4方につけられているものや、そのアバクスの平面が彎曲しているものがある。

アイ・バー eye bar 先端に円い孔がある鉄棒をいう。

アイボリーブラック ボーン黒に同じ。
同項参照。

アイル aisle 教会建築において側廊をいう。

アイロン台 ironing board 衣類にアイロンをかけるとき用いる台で、家庭用としては一般に図のように折りたたみ式のものをを用いると便利である。



アウトレットボックス outlet box 屋内配線用の電気器具、コンセント類を取付ける器具。



アカンサス文様 古代ギリシャ時代に



において創案された建築装飾であるが、現在ではあまり用いられていない。図のようにその葉が鋭いのが特長である。

アクリライト アクリル樹脂によつて製品化されたもので、厚さによりまた色により種類が多い。アクリル樹脂の項参照。

アクリル樹脂 acrylic plastic アセトン、青化ソーダ、硫酸、メタノールを主原料とした重合体で比重小さく（約1.2）、硬度高く（18～20）、かつ十分な光線透過性を有するので航空機、自動車、船舶および建築などの風防ガラスとしてまた装飾用など種々の用途に供せられる。

アクロポリス acropolis 古代ギリシャは都市国家として栄えたので特に都市の造営には注意が払われた。都市は国内の景勝の地で小高い丘を囲み、あるいは山の麓に造られたので、街はこの高い丘の部分と低い平地の2つの部分に別れ、丘の上をアクロポリス（上市）といつた。ここは国民の最も神聖な場所と考えられ神殿などが建てられた。そして一朝有事の際には立てこもつて城廓となつたところである。

アゴラ agora 古代ギリシャにおいて都心に設けられた市場をいい、ここには市庁舎、議事堂、クラブがあつた。

アジャスタ adjuster 窓金物の1種。数個の穴のある腕金を、サッシュの下部に取付け、窓台にあるほそにはめるもの。ねじで止めるもの、フリクションアジャスタといい円筒中に入出する棒のまさつまたはヒンジのまさつにより自動的に調整するものなどがある。



アストラガル astragal 古代ギリシャ、ローマの建築に見られる線形の1種。

アスファルト asphalt 天然歴青（bitumen という）の1種または天然歴青の加熱によつて生ずる種々の暗色の物質で、比較的不揮発性で主として炭化水素から成り、一般に防水性・耐水性・耐久性があり、強度は小であるが附着力が強いのでそのまままたはこれに砂・砂利などを混ぜて防水層あるいは道路舗装などに使用する。比重は1.0～1.7位。

アスファルト・グロート asphalt grout アスファルトに少量の砂を混ぜて加熱し、流動性をもつようになつたものをいう。

アスファルト・コンクリート asphalt concrete アスファルトに砂利、あるいは砂利と砂を混ぜたものをいい、床仕上げまたは歩道などに用いる。

アスファルト・コンパウンド asphalt compound アスファルトに動植物油、鉱物粉などをまぜ品質をよくしたもの。

アスファルト・セメント asphalt cement 純粋なアスファルトを加熱して使用に適するような軟度としたものをいう。

アスファルト・タイル asphalt tile アスファルトに粘結剤（主として合成樹脂塗料を用いる）、石綿、充填剤および顔料を加えて加熱し、シート状にして切断したもの。大きさは12"×12"、9"×9"があり、厚さは普通1/8"。特別品として3/16"、1/4"があり、色調は種々ある。床の仕上材料として用いられる。

アスファルト・フェルト asphalt felt 動植物または鉱物のせんいでつくったフェルトにアスファルトを浸潤させたもので、アスファルト防水層または木造モルタル壁の下張りに用いられる。

アスファルト・ブロック asphalt block ブローンアスファルトに砂利、砂、石灰石粉を加熱混合して圧縮成形したもので、アスファルトの含有量は9～15%。普通24×12×5cmの角形で舗道用などに用いられる。

アスファルト・マスティック asphalt mastic アスファルトに多量の砂をまぜて加熱したもので、ついで密実なものにする。歩道などに使用する。

アスファルト・モルタル asphalt mortar アスファルトに砂をまぜて作ったモルタルをいい、床仕上などに用いられる。

アスファルト・ルーフィング asphalt roofing アスファルトフェルトの両面にさらにアスファルトを塗布したもので、これのみでも防水効果があり簡単な用途には別にアスファルトを要しない。アスファルト・フェルトの項参照。

アスファルトれんが asphalt brick 粘土製の焼れんがにアスファルトをしみこませたもので、普通のものは平らな場所に、硬質のものは傾斜があつて摩損のはなはだしい場所に用いられる。

アスファルト褐 asphalt brown アスファルトの褐色のもので、テレピン油にとけるものをラックとして金属のさび止用

に用いるが、この褐色顔料をいう。

アスファルト敷き asphalt floor アスファルトで仕上げた床をいう。アスファルト床の項参照。

アスファルト防水屋根 asphalt built-up roof アスファルトとアスファルト・フェルト(アスファルトを侵透させて造った防水紙)を数層重ねてはりつけ防水層とし、その上に破損を防ぐため、シンダー・コンクリートまたはモルタル・ブロックで押えて保護した防水屋根をいい、主としてコンクリート構造のろく屋根に施工するが、木造・鉄骨屋根をろく屋根としてアスファルト防水する場合も上記の方法と同様にする。

アスファルト床 asphalt floor アスファルトで仕上げた床をいい、まず 7.5~10cm 厚のコンクリート下地を作り、その上に厚さ 2.5cm 位のアスファルトを流し、仕上面には細かい砂をまいておく。耐水性を有すること、弾性を有しきれつを生じないこと、すり減らないこと、修繕の度合が少ないことなどの利点がある。

アスベスタス・ミル・ボード asbestos mill board 石綿板に同じ。同項参照。

アスベスタス・モルタイト asbestos moltite 石綿を原料とした1種の多孔質モルタルの原料で、粉末でこれにセメント・砂を混ぜてモルタルとして使用する。仕上げ用として白色その他各種の色彩をもつものがある。

アスベスト・カーテン asbestos curtain 防火幕に同じ。同項参照。

アスヤンカッパーメッシュ防水層 金属線に細い糸を巻きつけ、これを織上げてアスファルト類に浸し、その後アスファルトの中にさし入れたもので、1種の補強アスファルト防水層である。

アッシュコンクリート ash concrete 軽量コンクリートの1種で、軽量骨材として工業副産物(石灰殻、スラグなど)を用いたコンクリートである。軽量コンクリートの項参照。

アッシリヤ建築 Assyrii architecture 1290年 B.C.~538年 B.C.の間アッシリヤ(現在のイラン)において行われた建築で、宮殿の入口に人頭や牛翼の彫刻をつけているのがその最大の特徴である。

アデイキラ *adicula* 古代ローマ時代、死体を埋葬した上に建てた神殿で、祭だん式墳墓（段形の下部構造の上に祭だんをのせたもの）、高塚墳墓（円形の下部構造をもっており、エジプトのピラミッドにならっている）、などにわかれている。

アトモスフィリック・キャビネット *atmospheric cabinet*
ルーム・クーラーに同じ。同項参照。

アトリウム *atrium* エトラスカンおよび古代ローマ時代の住宅における内庭をいう。

アトリエ *atelier* 画家、彫刻家、建築家が個人的に自分の仕事をする部屋をいう。

アネロイド気圧計 *aneroid barometer* 金属板のひずみによって大気の圧力を測る計器。

アパート *apartment house* アpartmentメントハウスに同じ。

アpartmentメント・ハウス *apartment house* 1つの建物に多数戸の家をまとめて建築するもので、敷地の狭い都市において発達したものであり、経済的に安価にできる利点があるが、プライバシー・独立性などの点において不十分なことがあるのが欠点である。

アpartmentメント・ホテル *apartment hotel* アpartmentの中に食堂があつてそのアpartmentに住む人に食事のサービスをするものをいう。

アバエ・アウス・ホメス *Abbaye aux Hommes* バリにあり、1066年の造営でロマネスク建築であるが、ゴシックの先駆をなしたものである。リブ（*rib*）およびバットレス（*buttress*）がよく発達しており、西面2基の塔があり、大きな拱の入口3個を設けた点などいずれも後のゴシック建築に用いられた形式である。

アバクス *abacus* ローマ建築などの柱頭のかさりの部分をいう。

アブ・サルガー（*Abu Sargah*）の宮殿 エジプトのカイロにあり、8世紀に造営されたものといわれ、エジプトにおける初期キリスト教建築として重要なものである。

アプス *apse* 教会建築において、祭だんのことをいう。

アプローチ *approach* 集団地住宅において住宅路から建物に至る小路をいい、普通幅2～3m位で住宅路から4～5m位あるのがよいとされている。

アベー abbey 大修道院，僧院，大寺院などをいう。

アポロガラス apollo glass 紫外線を透過するガラスで，日光浴室，病室などに用いられることがある。

アミアン (Amien) 大寺 1220～1269 年の間にフランス北部のアミアンに建造されたゴシック建築で，3 廊式，複廻廊をもっている。平面，立面ともにフランスゴシック建築の典型として後世一般に模倣されたものである。

アメリカ庭園 American garden 運動のための幾何式庭園と静養のための風致式庭園との組合せた表現をもつものをいう。

アナンシェーター annunciator 昇降機（エレベータ）の籠（ケージ）内にある操縦盤で自動式と手動式がある。

アラバスタガラス alabaster glass 乳色ガラスよりも透過率よく，透過光線を赤変することもないので照明用として電球に用いられる。厚さ 3mm で反射率 40%，透過率 45%，吸収率 15% である。

アラベスク arabesque アラビア民族が使用した装飾模様で，動物を幾何学的に配置した直線を巧妙にあん配して特殊の模様を考案したものであるが，後に回教によつて動物の使用を禁じられたので，直線と唐草を巧妙に応用したものもアラベスクと呼ばれる。

アランダム・タイル alundum tile タイルの 1 種。ボーキサイトを電気炉内で溶融してアランダムを作り，その粒子に結合剤を加えて圧搾成形し焼成してつくる。すべり止の性質があり階段用，床用，モザイク用に使われる。

アリザリン赤 媒染々料系のレーキ顔料中で代表的のもので，鮮やかな赤色と耐光性大なることが長所で，耐久性ありアルカリに強く，また油・アルコールにもおかされない。

アルアオスタイル Araeostyle 疎径間式に同じ。同項参照。

アルコーブ alcove 図のように建物または部屋の凹部になつている部分をいう。

アルコールステイン alcohol stain 染料をアルコールに溶いたもので，浸潤度が大きく乾燥が早い色がはんが出やすい。



アルコラボイラー arcola water boiler 小規模の暖房に用

いる温水ボイラーをいう。

アルハンブラ Alhambra 12世紀の終り頃スペインのグラナダ (Granada) に建造されたサラセン建築であり, Alhambra とは“赤い城”の意味で現存するものはその1部の宮殿であるが, この宮殿はサラセン建築の傑作でありまた世界の名建築である。平面は2つの内庭を取巻いて多くの部屋があり, 彫刻や壁画の装飾はサラセン建築特有の感じを出している。

アルミナセメント alumina cement アルミナの多いボーキサイト (bauxite) などの鉱石とほぼ等量の石灰岩を電気炉で完全に融合して作ったもので, その特長は短期強度の大であることと硫酸溶液や海水に強いことで各種セメント中随一であるが, 長期強度の低下, ぜい度係数が大である (20位) こと, 高価であることなどが欠点である。

アルミナれんが alumina brick アルミナを多く含むボーキサイトをまぜて作ったれんがで, 強度がきわめて大であるのが特長である。

アルミニウム板 aluminum plate アルミニウムを圧延したもので屋根ふき材・家具・室内外装飾品・造作材などに使用される。市場品の大きさは通常 $38 \times 110 \text{ cm}$, $41 \times 111 \text{ cm}$, 厚さ $1.0 \sim 3.1 \text{ mm}$ である。

アルミニウム・サッシ aluminum sash アルミニウム製のサッシをいい, スチールサッシより軽いが強度では劣りまた高価なのが欠点である。

アルミニウム扉 aluminum door アルミニウムで作られた扉。軽いが高価なのが欠点である。

アルミニウムペイント aluminum paint アルミニウムの粉末を油ワニスまたはボイル油にとかしたもの。光線および熱線の反射力が強く保温ならびに光線反射用に用いられる。ストーブ, ラジエータなどによく使われる。

アレクサンダー・エッフェル Alexandre Eiffel 19世紀におけるフランスの建築家で, パリのエッフェル塔 (1889年竣工) の設計者として有名。

アンカー anchoring おもりのことで, エレベーターのおもり, くいを打込むおもりなどがある。

アンカーボルト anchor bolt れんがまたはコンクリートへ

埋込んで、柱、壁などをきん着する鉄の棒。

アングル angle steel 横断面がL形をしている型钢をいう。
山形鋼ともいう。

アングロ・クラシック Anglo classic イギリスの古典主義建築をいう。

アンダー・プラスタークステンション under plaster extension
コンクリート造建築内ですでに埋込金属管工事のある場合で
延長配線工事を行うとき、表面の「しつくい」だけ掘り平形
の可とうケーブルやオーバルチューブを埋め、その上を「し
つくい」でとめる配線工事法で、コンクリートをいためず手
数が簡単にできるのが特長である。

アンティーク・グラス antique glass 板の厚さは不均一
で部分により 1.5~5.0mm 内外の差があり、多くの細条と
気泡がありいわば組成の不均一なガラスであるが、仲々所期
の色調を出し難い高級なステインドグラスである。

アンテナ antenna ラジオまたはテレビを送受信、送受信す
るため空中に突出した金属線をいう。

アンテナ鉄塔 antenna tower ラジオまたはテレビを送信、
送像するアンテナを取付けるための鉄塔をいう。

アントニオ・ダ・サンガロ Antonio da Sangalo 16世紀に
おけるイタリアの建築家で、セント・ピエトロ (S. Pietro)
の工事でラファエル (Raffael) の後継者となつた。作品と
してはほかにファーンエス宮殿 (Palazzo Farnese) がある。
1455年に生れ、1534年死去した。

アントニー・レーモンド Antonin Raymond フランク・ロ
イド・ライトの弟子で、現在日本に在つて活躍している建築
家。最近の作品としてはリーダーズ・ダイジェスト日本支社
がある。

アントワープ (Antwerp) 大寺 ベルギーのアントワープにあ
り、13世紀に建造されたゴシック建築で、7廊式のバジリ
カで外観が絵画的に美しいので有名。

アンバー umber 褐色顔料の1種で天然産。成分は黄土に
マンガンを含んだものすなわち鉄とマンガンとの含水珪酸化
合物である。アルカリには安定で、一般に耐久性が大である
が、 H_2S によつて変色するのが欠点である。

アンビシヤター amphitheatre 古代ローマ時代に建造され

た特有の闘技場で、プランは楕円形となっており、中央の競技場 Arena を囲んでさ敷が数十段設けられている。外観は劇場のように多層階になっている。

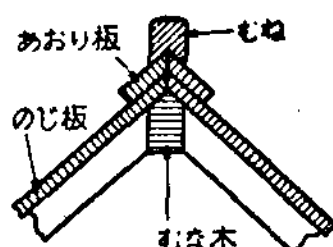
アール・エル・エム(R. L. M)型かさ 図

のように平べつたい電球のかさをいう。



あおり板 図のように木造の屋根でむねの部分につける板。

あおり止 door stop 扉や開障子をあけたまま止めておく金具をいう。



あく(灰汁)止め塗料 弱いアルカリ

にたえる人造樹脂と溶剤とを主な原料としてあるいはこれらと顔料とをねり合せて液状としたもので、乾燥したプラスター、^{しっくい} 添喰、モルタル・コンクリートなどの面に油性塗料を塗る場合の下塗りとして適当なものである。

あごかき(願欠) 柱へ横木を取付けるための仕口で、柱の両稜をかきまた横木をかいて組合せて継ぐ方法。

あじろ(網代)垣 あじろ組に作った垣をいう。

あじろ(網代)組 板または竹などを組合せたものをいう。

あすか(飛鳥)建築 推古天皇の前後(540~670年)の建築をいい、法隆寺の金堂がその代表的建築である。

あぜくら(校倉)造 log house 丸材を横に組立てて造った建物をいい、その代表的なものが奈良の正倉院である。年間を通じて湿度の変化がないことが最も重要な点である。

あそぶ(遊ぶ) 応力をうけるべき材料でその応力をうけていないもの、または緊結しているべき材料が離れているときにその材料が遊んでいるという。

あて(陽疾・反木) 木材において年輪の一部がほとんど秋材からなり過度にかたくなつたもので、原因は不明。ケヤキ・スギ・マツ・ヒバなどに往々現われ、かんな削りが困難で、かつ反張しやすく、工作に不便。

あばら筋 stirrup ろく鉄筋に同じ。同項参照。

あばらたるき まばらに取付けたたるきをいう。

あぶみ金物 はりと根太あるいは大はりと小はりを緊結する場合などに用いるあぶみ型の金物。

あぶみがわら 古語で、現今の「軒から草かわら」のこと。

あま組 和様様式で仏寺建築の柱と柱の間に図のように間斗